

氏名	西 脇 新 五		
学位の種類	医 学 博 士		
学位授与番号	乙 第 1364 号		
学位授与の日付	昭和58年3月31日		
学位授与の要件	博士学位論文提出者（学位規則第5条第2項該当）		
学位論文題目	無月経症における尿中ステロイドホルモンの酵素系を中心とした変動に関する研究		
論文審査委員	教授 産賀敏彦	教授 太田善介	教授 大森弘之

### 学位論文内容の要旨

無月経症例について、LH-RH テストにて中枢機能検査後に、Dexamethasone 負荷による Dynamic Test を施行し、尿及び血清中のステロイドホルモンを測定した尿中ホルモンに関しては、吉田等の提唱した、ステロイド代謝に関連した酵素の仕事とパターンの概念に基づいて検討した。血中ホルモンは、FSH, LH, Estradiol, Progesterone を RIA 法にて測定検討した。

今回の血中ホルモン (Estradiol, Progesterone) の測定結果では、Ⅰ・Ⅱ度無月経において、特徴的な変動は認められず、単なる性腺系ステロイドホルモン測定のみでは、性腺機能の判定は、困難なことが推測された。一方尿中ステロイドホルモン測定による、酵素の仕事とパターンによる新しい評価法により検討すると、正常例、Ⅰ度無月経、Ⅱ度無月経の3者間に、明らかな相違が認められた。すなわち、Ⅰ度無月経では、酵素の仕事についてみると、対象尿で解離を示す例が多い。酵素のパターンでは、HCG 刺激で解離を示す例が多い。又中枢における、LH-RH テスト時の LH 反応のパターンの乱れと同じ傾向を示している。このことは、全体的なホルモンバランスの乱れが、性腺系に影響を与えた為と推測される。又 HCG の刺激でパターンに解離を認めることは、性腺系の障害の程度がうかがわれ興味深い。Ⅱ度無月経では、酵素の仕事とパターンが、DXA 抑制、HCG 刺激で、同時に解離している。このことは、全体のホルモンバランスの乱れが、Ⅰ度無月経より強く、DXA 抑制で酵素の仕事とパターン解離があることは、単に性腺系の異常のみでなく、副腎系に迄、異常がおよんでいることが推測される。以上、無月経症例について、新しい評価法について検討した結果、①無月経症例においては、単に性腺ホルモンの測定のみでは充分でない。②新しい評価法によると、正常例、Ⅰ度無月経、Ⅱ度無月経の三者間に明らかな相違が認められた。③新しい評価法

では、ほぼ中枢の LH-RH テストの結果と一致することが多かった。

#### 論文審査の結果の要旨

本研究は無月経症におけるステロイドホルモンの変動に関する臨床的研究であるが、尿中ステロイドホルモンを4群に分けて性腺機能と副腎機能の両面から研究して重要な知見を得たものとして価値ある業績であると認める。

よって、本研究者は医学博士の学位を得る資格があると認める。